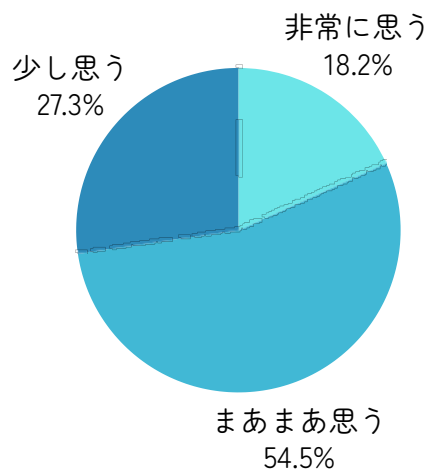


アンケート（11名）



15. この活動について、家族や友人など周りの人に紹介したいと思いますか？

- 非常に思う...2名
- まあまあ思う...6名
- 少し思う...3名
- 特に変わらない...0名



本事業へのご意見・ご感想などがあれば、ご自由にお書きください。

16. (自由回答・一部抜粋)

- ・本年度もありがとうございました。文化の会議への参加がきっかけとなり、色々な活動をされている方に興味を持ち、話を聞いたり関わりをもったりする機会が増えました。
- ・コモンズのコーディネーターである事を裏付けするために、名刺を各コーディネーターに配ってほしい。
- ・いろいろな活動が、補助金に頼らなくてもできるよう、そこまでやって欲しい。
- ・メンバーの関心も多様で、参加目的や意識にも温度差があったように感じました。講義や視察など多様な経験をさせていただいて感謝しています。
- ・茨木市として、この活動にかける本気度が感じられる活動になるように、お金をかけずとも知恵を出していただきたい。

アンケート（11名）



- ・文化の会議で得られるもの、目標や形になるものが最初から具体的に示されていなかったように思うので不安はありました。この会議を通じてアートに関心のある方々と繋がれたことは嬉しく、感謝しております。他分野との連携という点で、市が関わってくださっている強みを活かし福祉・教育・環境などの職員さんに、茨木市がどういった社会課題を抱えているのか事前に教えてもらってから実地見学したほうがよかったのかなと思います。それぞれの課題に対してどういうふうにアートが関わってきているのか、より深く市民アートコーディネーターとして学べたのではないかと思います。（現地で抱える課題も教えてくださいましたが、事前に聞いておいた方が見どころもしぼれるのかなと思いました。一般的な福祉施設などの見学とは違った視点をもって入れたと思います。）土日にも関わらずSPS・市の職員さんも多く来てくださり、手厚く対応してくださって安心感がありました。ありがとうございました。実際にアートを楽しんでいる市民や施設を利用している市民の方の感想が聞けなかったのが残念でした。いろいろと企画されているのは知ることができ感銘をうけましたが、それが市民（対象者）にとってどうなのか、役に立っているのか、楽しいのか、どこか困っているのか聞いてみたかったです。また、文化芸術側にいるアーティストの話をもう少し聞きたかったです。（One Art Projectさんの1時間だけではなく）アーティストによって考え方もあると思います。文化芸術を楽しむことにおいて、アーティストの存在は欠かせないと思うので、色んなアーティストの話や意見を聞ける機会があると良いと思いました。

成果物 (つどう)



つどう

- エリカ
- おにカルで 昔に練習した 楽器をもう一度
- 平田 尾田
- 37センチリッチの講義を受けて、実際にプログラムを体験してみる。
- 中央図書館 ランダールのコンサート
- Hub Baraki 7/27-28/29 参加
- 12/4-5/11 福居文化会館 ICAN 参加する
- 今後は 解内T 解ある!
- おにカルのHPと イベント情報と確認して参加する
- 手紙の 手紙-EL2 みた...
- 11月16日 COFFEE MEETS お気に入りのコーヒーを 見つける そのお店に昼間行く
- 古典を大切に扱う場 社会に合わせてアップデートしている場 両方行くこと。
- 心地よい 関係性を 意識する
- モチベーションを 維持する
- 関わり方を 考える
- 継続して 関わる
- 幅広く情報を 収集する
- Slackなどを 活用して情報を 共有する

市内の 気になる イベントに 参加してみる	・ジャズの世界観 を味わいたい 音楽 ・プレイは海に おくみたい (沖縄?)	出かける。 地球を 歩く。	イベントに行き 話し合いをする	・近所、近所 関係性 関係性 が面白い 美術、クラシック 音楽 に寄りたい 楽しみ を大事に	知る	人が集まる 所に 1人で行ってみる	歴史を知る。
百原総合HPの 更新の件!	・ついでにバレーボールの アナログアプリに 参加する!!	市内の イベントを もっと 知る	Hub-IBARAKI Art Project 参加する	・美術館に行くと 作品の 大きさを見てみたい (アート)	SOU + 関係性 (関係性-関係性)	・成安、田中 さんの 関係性 見たい。 ・熊手、関係性 関係性!	参加してみよう。

・カランテア 情報が入る メールが入る

成果物 (つたえる)



つたえる

伝えたい
いつかいつか
足元はどんな
足元は?

3-1に興味があるが分
らない時に、押し付け
なさないよう質問を
紹介してみる。

2026年4月に
自らイベントを企画して
(仮)市民活動センターで
やってみる。

伝えている
こと

about me 9
ワークショップ見学をして
3-1に興味があることに
伝えている。

12.4~21
福祉文化会館
ICAW
参加する
感想を伝える

この分野の下知を
知ってもらう子供が
集まるワークショップ(ハン
カチ+伊人)をする

活動内容に
相応しい
予算を
考える

市内内で、生ゴミの分
別収集、生ゴミの処理場と
作りの目指は、お化け屋敷の
集客に集客、同じ考えの人
と近いアイデア意見を
つなぐ

とりすき
お化け屋敷
右左のいた
お化け屋敷

鬼お化けのよ
奈木市職員の変遷
改革が必要

関係する人
を
思いやる

伝えたい
メッセージを整理する

事実を把握
確認する

効果的な発信
手法を意識する

情報を整理して
共有する

わかりやすい
文章構成で伝える

専門性 お文化 アワード	人材育成	アンサブル をもう一度 したい	(アーティストとして) 露出の機会を 増やす	古い歴史 新しい歴史 両方ある奈木市	奈木の文化活動 を紹介していく	市民の声を 伝える 伝える
仲間と 伝える事を 実践する	花日、花日 集約して存在 確認のしついで やってみる (APD)	ネイル(自分の) 活動を知って 為に「伝える」 やってみる(おま いしりは(おまい))	奈木らしい 奈木下から の魂の発見 記録	市民活動センター の活動の紹介 +おまい 40!!	市民活動の 奈木の場所 がある	イベントを 市民に伝える 方法がある



1. 今年度のゴール達成度合い

• 今年度のゴール

「市民アートコーディネーター（AC）として必要なスキル※や関係性の築き方を学び、文化芸術×他分野の取組みを知ることで他者や他団体とつながるアイデアを考える」



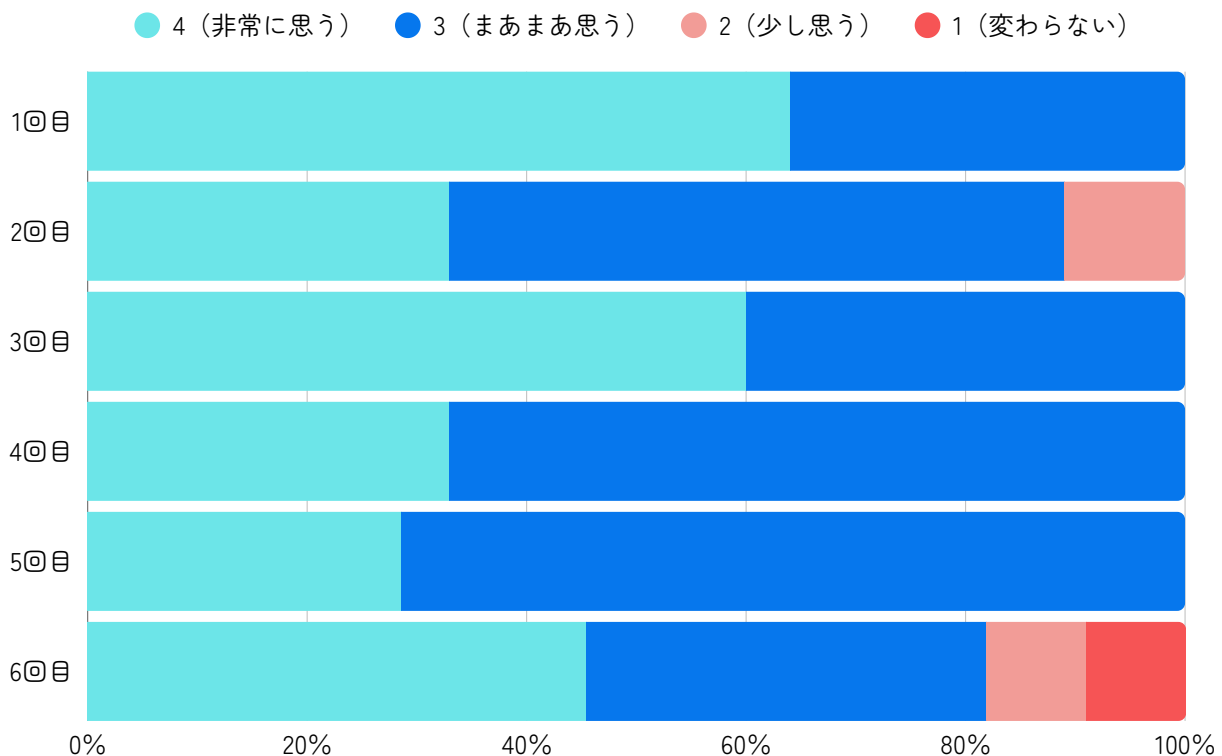
※スキル：つどう、つながる、つたえる

• 達成度合い

全6回のアンケート結果において全ての項目で平均スコア「3（まあまあ思う）」以上が80%前後と概ね達成したと言える。特に第3回（視察）では、高い満足度を得ることができた。Q3（新しい出会い）は、第2回以降大きく改善し、Q4（アイデアの獲得）も高い水準で推移。一方でQ1・Q2（文化芸術への貢献意欲）のスコアが落ち着いた要因は、意欲の低下ではなく、回を重ねるごとに「理想」から「自分にできる具体的な行動」へと視点に移り、現実的な自己評価が行われるようになったためと推察される。

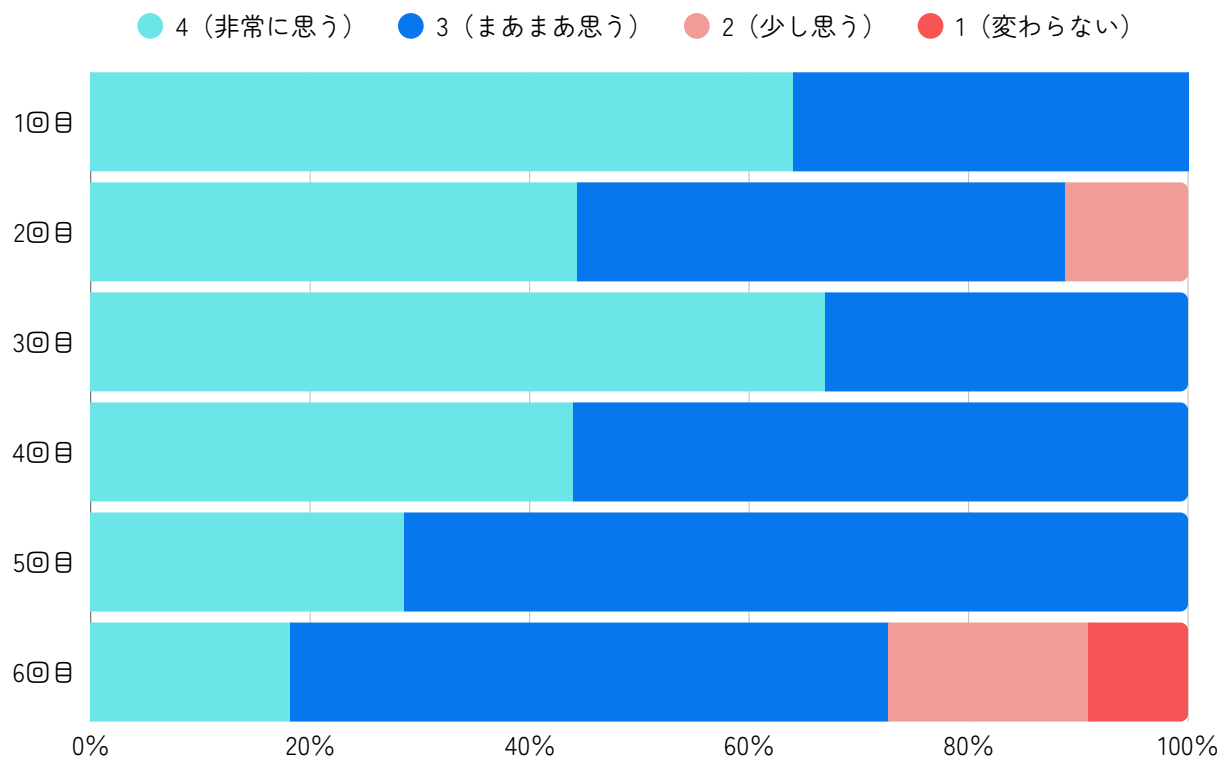
Q1 文化芸術への関心度合い

- 平均スコア3.4
- 第1～5回の参加者の**85%**が3（まあまあ思う）以上



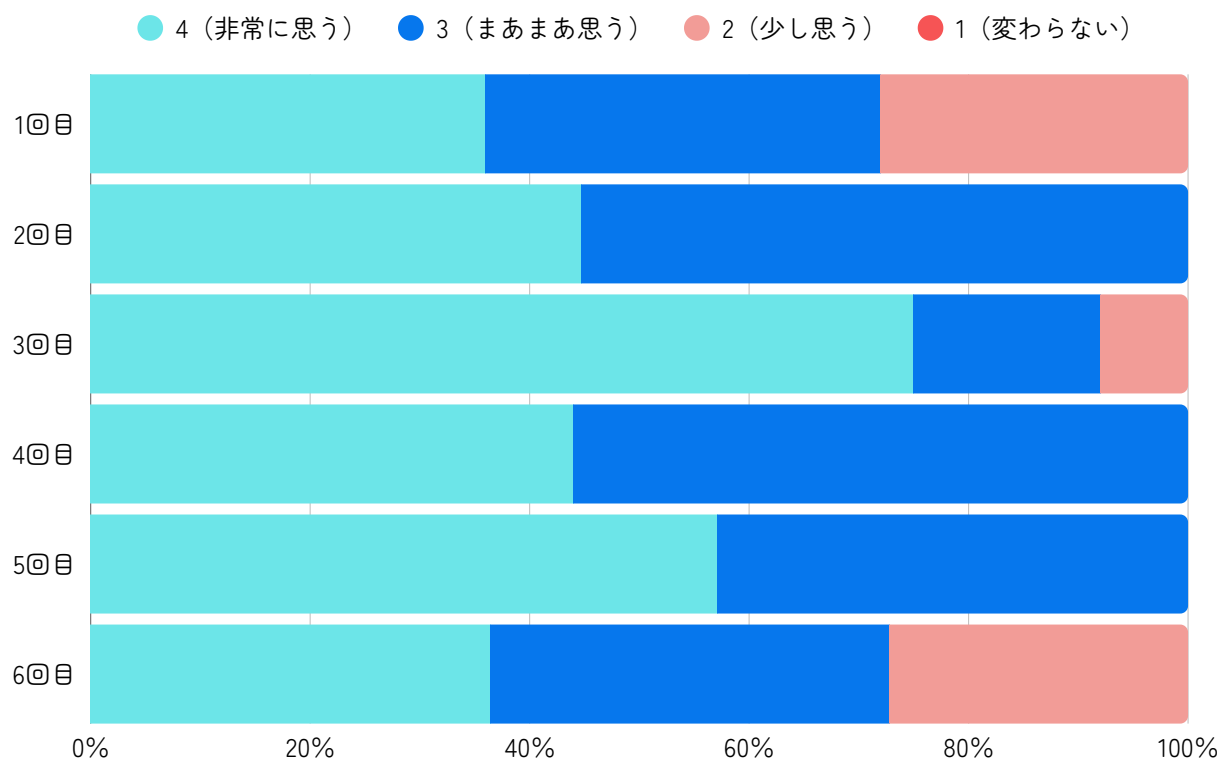
Q2 地域貢献意欲

- 平均スコア3.4
- 第1~5回の参加者の85%が3（まあまあ思う）以上



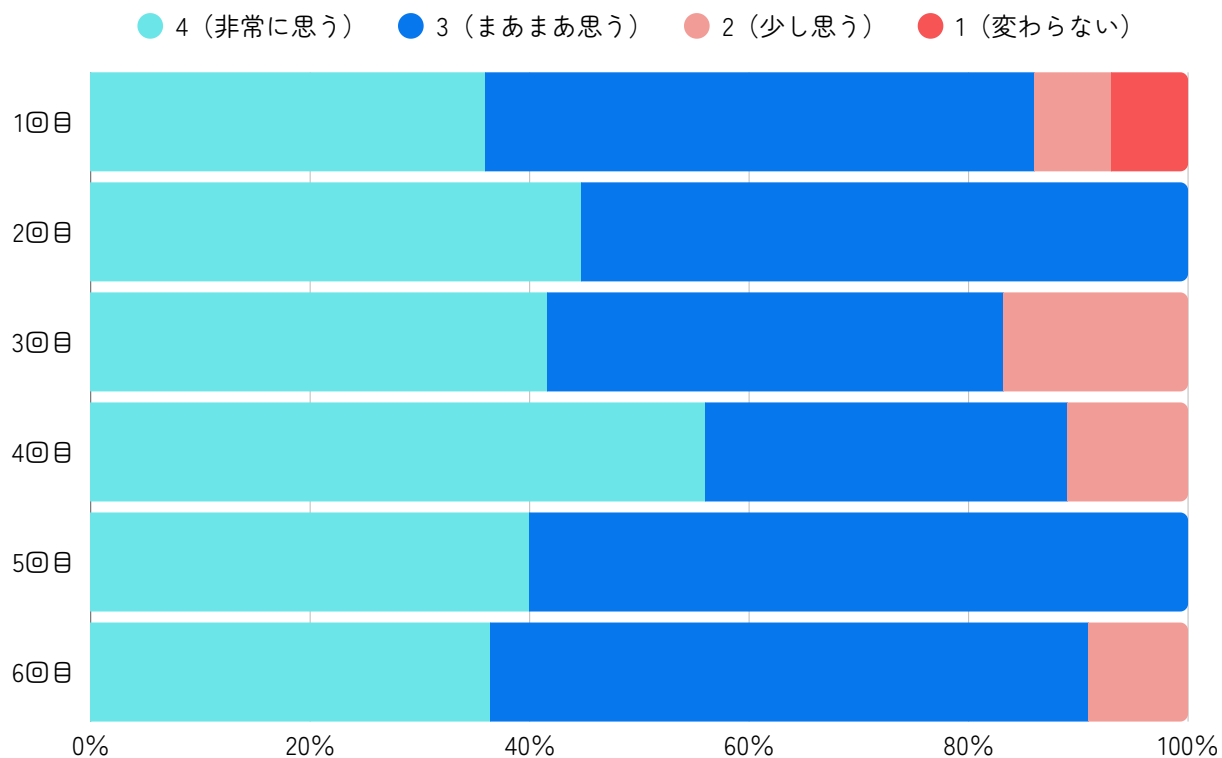
Q3 新しいつながり実感

- 平均スコア3.5
- 第2~5回の参加者の90%が3（まあまあ思う）以上



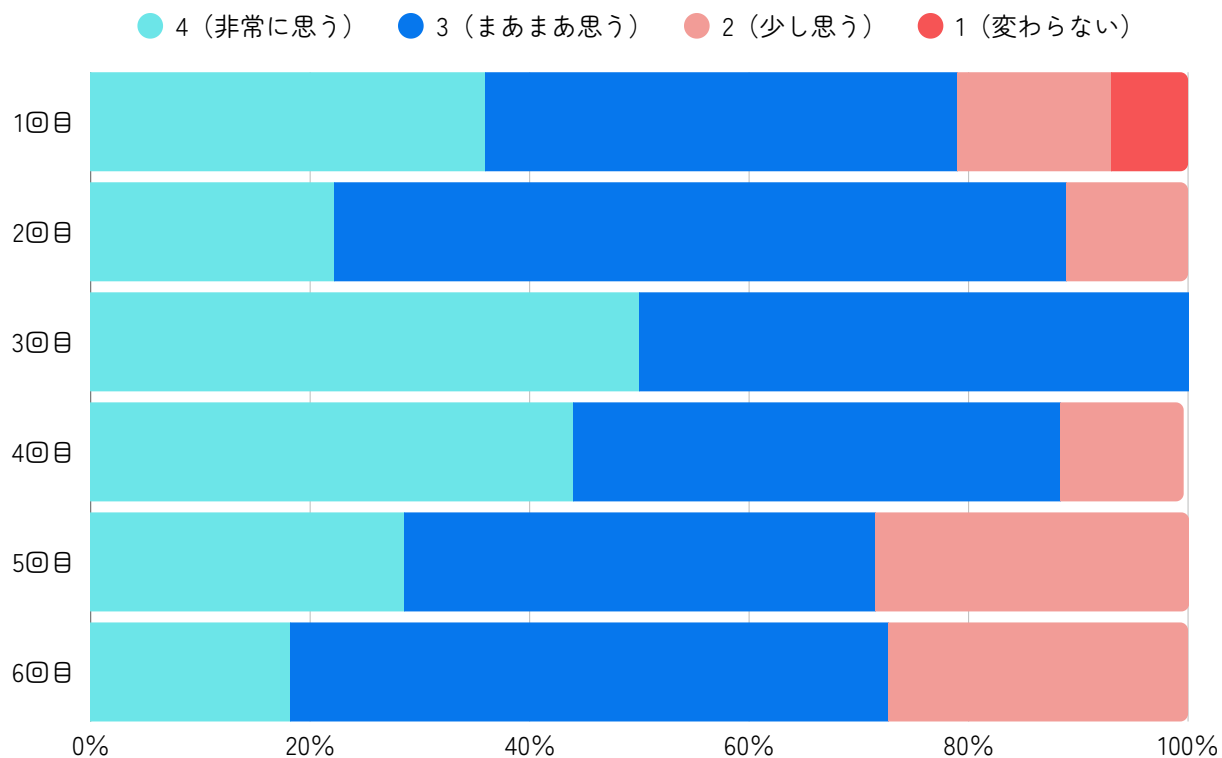
Q4 好奇心アイデア獲得

- 平均スコア3.4
- すべての回で参加者の80%が3（まあまあ思う）以上



Q5 紹介意欲

- 平均スコア3.2
- すべての参加者の70%が3（まあまあ思う）以上





• アンケートの自由記述より行動変容を精査

全6回のアンケート自由記述より今年度ゴールの各要素に対応する具体的な変化が複数確認でき「概ね達成」と評価できる。ゴールを以下の3つに分解し、分解した部分に相当する発言や行動を照らしあわせ分析。

① 「スキルや関係性の築き方を学ぶ」

→「聞く側に徹することが増えた」「年齢の離れた人と話せるようになった」など傾聴・対話の姿勢に変化が出ている。

また「自分が全部つなげなくてよいと気づいた」「ハブとして支える役割を意識できた」など、

市民ACとしてのスタンス理解が進んでいる。

② 「文化芸術×他分野の取組みを知る」

→各分野で視察を実施し、「理念を言語化して共有しつつ、行動し続けることが大切」「混ざり合うことができる可能性に気付かされた」など具体的な社会課題とアートの関わりを言葉にできている。

③ 「他者や他団体とつながるアイデアを考える」

→各分野で話し合い、アイデアレベルまでは複数出すことができた。最終回のアンケートで「トライできたこと」が複数名から出ており、「他分野の場に足を運んだ」「他市の人にmaruを紹介した」など、アイデアを小さな行動に移している。



3. 課題と今後について

• 課題について

市民ACとして求める人物像は一定の理解が得られたが具体的な行動については全員が自信を持って“できた”と言えるレベルには少し届いておらず、参加者の到達度にばらつきがみられる。「学び・気づき・アイデア」は多数得られたため、次年度以降は自分の役割を具体的に行動に移し、継続的に実践に落とし込む支援が必要。

• 最終ゴールに向けて

「文化芸術をきっかけに誰一人取り残さない社会をつくる。
他の団体や他者と積極的につながり、つなげる役割を担う」

最終ゴールに向けた基盤づくりは、「つどう、つながる、つたえる」というプロセスを通じて概ね達成された。今後はこの基盤を活かし、市民ACが「つなぎ役」として実践するフェーズへと移行する必要がある。令和8年度以降は、関わり方の多様性を尊重しつつも、継続参加者と新規参加者を交えた実践的プログラムを展開し、参加者自身が主体的に動ける体制構築を目指す。

